

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日々の介護の中で理念を共有しながら、介護力の向上に努めている。	「安心と尊厳を守る」を最重要課題として理念を作っている。日常業務を行うなかで口頭による注意、喚起により職員意識は根付いている。	事業所の理念を、運営規定やパンフレット、ホームページ、ホーム便りなどに明記し、利用者、家族、地域、行政などへ示すことで事業所の社会的役割を再認識できるのではないかとと思われる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の役員もしている。地域の行事等に参加し、また、施設の行事は地元の人にも参加してもらい、利用者様との交流を深めている。	永く開業医として地域に貢献してきた地盤があり、その延長線上に事業所も自然体で地域に受け入れられている。また利用者も地域の方々が多く、地域行事に参加することを楽しみにしており、地域住民も事業所主催の行事に参加するなど相互の交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加していただき、認知症の理解を深めてもらい地域の人々に活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様ご家族様・市職員・地域包括支援センター・老人会・自治会・民生委員の方々に会議に参加していただき、地域に密着したサービスの向上に努めている。	運営推進会議は市担当者、包括支援センター職員、自治会、老人会、民生委員、併設の有料老人ホーム利用者家族も交え開催され、意見が述べられている。	行政、地域、家族との連携は取れているが、運営推進会議の内容を職員へ伝えていない。外部評価結果を運営推進会議で報告し、意見を出してもらい、話し合い、その結果を職員へ伝え、ケアの向上に活かされることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者と常に連絡を取り合い情報交換を行い、お互いが信頼と協力関係を維持できる様につとめている。	市担当者、包括支援センター職員には運営推進会議、事業所イベントに参加を得ているほか、困難事例の利用者を受け入れたり、介護保険等の情報を貰うなど協力関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束しないケアが取り組めるように、あらゆる角度から利用者様本意の介護の方法を迫っている。	拘束しないケアについて、日々の支援の中で話し合い実践している。管理者は「利用者がしたいと言うことは1度は聞くように」と職員に指導し、その後の対応を職員間で話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	常に職員が心にゆとりを持ち、利用者様に対して愛情を持ってケアが実施できる様に、勉強会を行い虐待が見過ごされない様に注意を払い防止につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、施設職員に勉強会を実施し、個々に応じた理解と対応を話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様等に不安や疑問を感じさせないように、事前説明を十分に行い、利用者様やご家族様等からの質問には理解・納得が図れるよう丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が利用者様やご家族様と常にコミュニケーションをとるようにつとめ、運営推進会議等の機会に利用者様やご家族様の意見を聞くようにし、運営に反映させている。	利用者全員が地域の方で、家族も含め言いやすい関係にあり面会時にはできるだけ管理者が話を聞くようにしている。運営推進会議にも複数の家族の参加がある。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常日頃から施設運営等について問題が生じた場合はリアルタイムに職員の意見や提案を聞けるような体制にしている。	管理者は日々の活動の中で職員の意見や希望を聞いている。毎月1回行われるスタッフ会議では行政からの情報などを伝達している。	管理者からの伝言や職員間の連絡事項などを連絡ノート等に記録し、常勤・非常勤全職員が閲覧、確認できるような工夫が望まれる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力・実績・勤務状況を把握し、職員と意見交換し、各自が向上心を持って働ける様、明るい職場環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は各種研修に参加し、ケアの向上が行えるよう内外の研修を行う機会を作り、日々きめ細かく指導していくようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、各種大会や会合にも積極的に参加し、情報交換や勉強会にも参加してサービスの質の向上が図れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報を元にフェースシートを作成して職員全員が情報を共有し、利用者様の不安をなくし信頼関係が円滑になる様につとめている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入所をしてもらい、利用者様とご家族様が納得した上で、入居してもらうことにしている。ご家族様の不安なこと・要望に耳を傾け、受け入れ体制づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に利用者様とご家族様の思いをしっかりと把握し、幅広い支援の方法をとるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を家族の一員として愛情を持って接し、生活を共有している。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と利用者様の関係が保てるように、面会時間を一応もうけているが、ご家族様の意向で自由に面会の機会を持っていただき、共に利用者様を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れた利用者様の愛用品を居室に持ち込んでいただくようにしている。馴染みの場所に、一緒に外出したり、友人や親せきの人達にも面会に来ていただけるようにしている。	利用者と共に地域行事に積極的に参加し、昔を思い出してもらったり、家族との外出や正月、お盆に自宅に帰れるように支援している。面会時間は一応決めているが、自由に来訪してもらっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調が許す限り、リビングの円卓ですごしていたが、職員が声かけをしながら全員がなごやかにすごせる様に見守っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設のイベントの参加や近くに来られた時には立ち寄りいただけるように声かけをし、施設との関係が身近に感じられるようにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活(会話)の中から、利用者様の希望等の把握に努め、またご家族様の意向も取り入れるように努めている。出来るだけその人らしく過ごせるように努めている。	管理者とケアマネージャーが利用者、家族と面談し、この情報を基にアセスメントシートを作成して意向や希望の把握をしている。意思を伝えられる方が多いので、日々の会話の中でも意思の把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から今までの生活環境や暮らし方を十分に聞き取り、今後の生活に反映できるようにつとめている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家庭にいる時のように利用者様に出来る事を積極的に参加してもらい、本人の持っている力を生かせるようにつとめている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様の意見を十分に聞いた上で、管理者と職員が意見交換を行い、利用者様やご家族様の意見を出来る限り取り入れ、利用者様の現状に即した計画になるように努めている。	入所時のアセスメントシート及びカファレンスの情報を基に介護計画書を作成し利用者・家族に説明して同意を得ている。利用者の視点でニーズを捉え、支援内容を考慮した計画書になっている。介護計画は6か月ごとに見直ししている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に出来る限り詳細に記入し、職員間で情報を共有し、十分な意見交換を行いながらケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに対応できる様に既存のサービスに捉われない柔軟な支援・サービスが実践できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りやイベント等に積極的に参加してもらい、利用者様が心豊かに安心して暮らせるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者様やご家族様と十分に話し合いを持ち、かかりつけ医には定期的に往診にきていただき又、緊急時には往診や相談にのってもらっている。	月に2度内科医、月に1度皮膚科医の往診がある。必要時には歯科医の往診もある。かかりつけ医には緊急時にも対応してもらえることができる。ケアマネジャーは元看護師であり、医師との連携が良くとれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の介護の中で介護職と看護職は常に情報を共有し利用者様が適切な受診・看護を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	元開業医(高橋医院)であったので、緊急時に入院できる病院を複数確保しており、病院関係者との情報交換もスムーズに出来るような体制づくりをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、利用者様やご家族様の意向を十分に聞き、主治医や訪問看護師との協力も得て、看取りを行えるように取り組んでいる。	看取りの指針があり、家族との話し合いもされているが、指針の文書化はしていない。緊急時対応には医師、看護師、管理者との連携による体制ができています。昨年4名の看取りを行った。夜間の急変で医療処置が必要な場合は家族、医師の判断で緊急入院される方もいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備えてマニュアルを作り、勉強会を実施し、事故発生時に実践できるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全館スプリンクラーの設置や、耐震化工事も実施した上で、年2回消防署の指導のもと避難訓練を実施している。又自治会の協力も得られるように努めている。	ホーム建物の耐震工事を行い、スプリンクラーを設置をした。消防署指導のもと利用者と共に避難訓練を年2回実施している。災害時には井戸の水が使える状態にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの思いや人格を十分に把握し安心して暮らせる様十分な気配りをしている。	「安心と尊厳を守る」ケアを実践している。食事に1~2時間掛る方、ドリップコーヒーの好きな方など本人の希望の叶うケアを心がけている。トイレ誘導時の声かけの仕方などに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者様が常にコミュニケーションを取り、利用者様の希望や思いが言いやすい環境づくりをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員だけでなく、利用者様の意見を取り入れ、一人ひとりのペースを尊重し、その日の過ごし方を聞き入れるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理容師に散髪に来ていただき、利用者様が清潔・身ざれいになる様に心がけている。利用者様の好みに合った服装が出来る様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に献立の希望を聞くようにし、利用者様が食事の準備や片付けに参加出来るように心がけている。	地場野菜を中心に職員が分担して手作りの食事を提供している。幾種ものおかずも量もたっぷりだが、利用者は残す方も少なく味付けも良いと満足そうであった。下準備やお盆拭きなどを手伝う方もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に水分摂取を行い、栄養バランスのとれたバラエティに富んだ食事を提供しており利用者様の楽しみの一つとなっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、排泄のリズムをつくり失禁やおむつの使用を減らせるように支援している。	昼間オムツの使用者は無く、トイレ誘導している。自分でトイレに行く方もいる。おやつにヨーグルトを出し、野菜も多く摂ってもらい、整腸と自然排便を図っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事摂取と適度の運動や水分摂取を促し、日々の日課に運動を取り入れ便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯はあらかじめ決められているが、体調や利用者様の希望に合わせて時間や入浴方法の変更(足浴等)を実施している。	概ね週3回入浴している。長風呂好きや、熱め好みなど利用者の希望に添うように支援している。入浴拒否の利用者には話題を変えながら声かけし対応している。ゆず風呂を楽しむなどの工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後や体調に合わせて短時間の昼寝時間をつくり、又、日中レクリエーションや運動を行い夜間安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬記録を作成し、職員が常日頃からノートに目を通し、注意点を確認している。食後の服薬を確認し、症状の変化の把握につとめている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、料理や食器洗いの手伝い・掃除の手伝い等その人に応じてできる事をしてもらえるよう役割分担をしている。お手玉・豆とり・ソフトピンポン・唱歌等を楽しみ、生きがいをもてるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を出来る限り聞き、又、ご家族様にも相談し買い物や外出の機会を増やせるように支援している。	日常的にはベランダで外気浴をしたり、中庭を散歩したりしている。時には週刊誌を買いに外出支援することもある。地域行事が多くあり、積極的に参加している。外食の際に希望があればビールを飲んでもらうこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様やご家族様と十分に相談した上で、一人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持して使っていただけるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心地良い音楽を流し、室内には季節の花々を飾り、壁には利用者様の描いた絵や書、写真を掲示してアットホームな雰囲気作りを心掛け、利用者様にとって心とむ空間作りをしている。	浴室、トイレが清潔に保たれており、居間の壁面も落ち着いた飾り付けになっている。中央の大テーブルの上には利用者各人のプラスチックの小物入れを置き、タオルなど必要な物を入れ、出来る事は各自してもらおうよう自覚を促している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士や独りでもゆったり過ごせるようにソファやホームこたつ等を置き居場所づくりに努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や持ち物・仏壇等を持ち込んでもらっている。個々に応じたのれんと手作りのネームプレートを部屋の入り口に掛けて利用者様の部屋に愛着を持ってもらい、心地よく過ごせるように工夫している。	入り口にはそれぞれ異なったネームプレートと暖簾を掛けている。大きな作り付けのクローゼットがあり空間の有効利用を図っている。使い慣れた筆筒や鏡台、仏壇などを持ち込まれている。夜間ポータブルトイレを使用する方が多いのに尿臭がなく清潔であった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけわかりやすく、安全に動きやすい環境設計にしている。寝たきりにならない様自立した生活を送れるように工夫している。		